

## 海野素央先生

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学政治経済学部 公開日: 2012-05-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 木谷, 光宏 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/12503">http://hdl.handle.net/10291/12503</a>

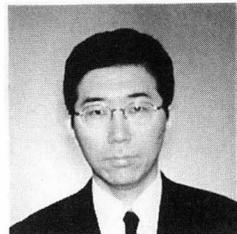
## 海野素央先生

カリキュラム改革によって新設された「異文化間コミュニケーション論」の担当者として公募で迎えられた海野素央専任講師のプロフィールをご紹介します。

海野先生は静岡県出身で一九八〇年から一九八四年まで明治大学政治経済学部政治学科に在籍し、就職した後、向学心に燃えて渡米し、米国の大学院にて修士課程、博士課程を修了し、博士号の学位（心理学）を取得しました。明治大学在学中は私のゼミナールに所属し、大変研究熱心な学生であり、その主たる研究領域は「文化とコミュニケーション」で、大量の資料収集と文献研究は勿論のこと、「存在するものによって証明されるものこそ真の科学である」というクルト・レヴィン博士の理論に基づいて実証的研究を続けてきた人物です。学部時代のゼミナール活動では、ゼミ長とし

てゼミ内を統括し、同期の仲間や後輩からの信望も厚く、リーダーとしても積極的な行動力とバイタリティーに溢れた学生でした。また、彼はその生活態度も誠実で責任感が強く、物事の筋道を論理的に説明することが得意で、分析的・客観的な物の見方ができる能力を持っていました。

現在、異文化コミュニケーション・インターナショナル並びに日本異文化コミュニケーション研究会の会員であり、一九九七年度の「学生年鑑」に全米の優秀な学生の一人としてリストアップされ、USインターナショナル・ユニバーシティの卒業式の代表演説者に選ばれたことは、優れた研究者としての資質の一端を示すものとして特筆すべきものでその努力を高く評価されています。



ところで、彼が異文化とコミュニケーションに興味を持ち始めたのはニューヨークにあるインターナショナルハウスの理事会のメンバーに選出され、フォード元大統領と言葉を交わす機会があった時です。元大統領から「君がインターナショナルハウスに住んでいる目的は、クロスカルチュラル・コミュニケーションを磨くためだ」というアドバイスを受け、感銘を受けたのでした。さらに、クロスカルチュラル・コミュニケーションの研究者で、「カルチュラル・フルーエント・リーダー」(異文化に対して柔軟に対応できるリーダー、異文化をこなせるリーダー)という言葉を造語したR・スミス、S・リッセン両博士との出会いも彼に多大の影響を与えました。また、外務省より任命されたラウンドール・フィリップス名誉領事の推薦で、アイゼンハワー元大統領が設立した「ピープル・トゥ・ピープル」という倶楽部の会員になることができ、サンディエゴにあるスクリップメサロータリー倶楽部にて何度かスピーチを行っています。「ピープル・トゥ・ピープル」は世界中にこの倶楽部を持っており、その目的は異文化の理解を通じて友好を深めることにあります。さらに、アメリカン・グラジュエートスクール・オブ・

インターナショナルマネジメント(アリゾナ州)の指導教授から一任され、メキシコシティにてペメックスをはじめメキシコにおける大手企業の管理職クラスに対してケースメソッドを中心とする「異文化コミュニケーション論」の講義を行っています。

人間の出会いにはその人の人生を大きく変える場合があります。海野先生の場合も渡米中、そこでの知日、親日あるいは反日の人々、そして大多数の日本を知らない人々に出会いました。彼はフォード元大統領の言葉をきっかけに異文化とコミュニケーションに興味を抱き、さらにスミス、リッセン両博士の人柄に触れ、カルチュラル・フルーエントな人間になろうと心がけるようになりました。これが彼の滞米一〇年間の異文化体験を通して得た最大の収穫であったと考えられます。

彼は自らの体験と研究成果をもとに四月から「異文化間コミュニケーション論」の専任講師として明治大学の教壇に立ち、その熱心な講義に受講者から高い評価を得ています。また、ゼミナール教育においても常に学生の声に耳を傾け胸襟を開いて語り合い、一人ひとりの力量を冷静に観察し、その個性を存分に伸ばさ

せていこうとする教育的態度を強く持っています。

彼は明治大学政治経済学部で四年間学んだことに深い喜びと誇りを持つとともに母校明治大学をこよなく愛し、「前へ」の明大スピリットを常に持ち続けてきた、強い愛校心の持ち主でもあります。研究者としての優秀さは勿論のこと、教育者としても人間的魅力を十分に備えた海野先生は、21世紀の明治大学発展の原動力となる、有為な人物です。

これからの国際社会の舞台で、彼が明治大学から世界をリードするメッセージを発信し、八面六臂に活躍されることを期待しております。政治経済学部の諸先生はじめ、先輩諸氏の温かいご指導と励ましを持って育てて頂きたく、どうぞよろしくお願い申し上げます。

木谷光宏